

発行日： 令和2年10月20日

発行者： 今村証券株式会社

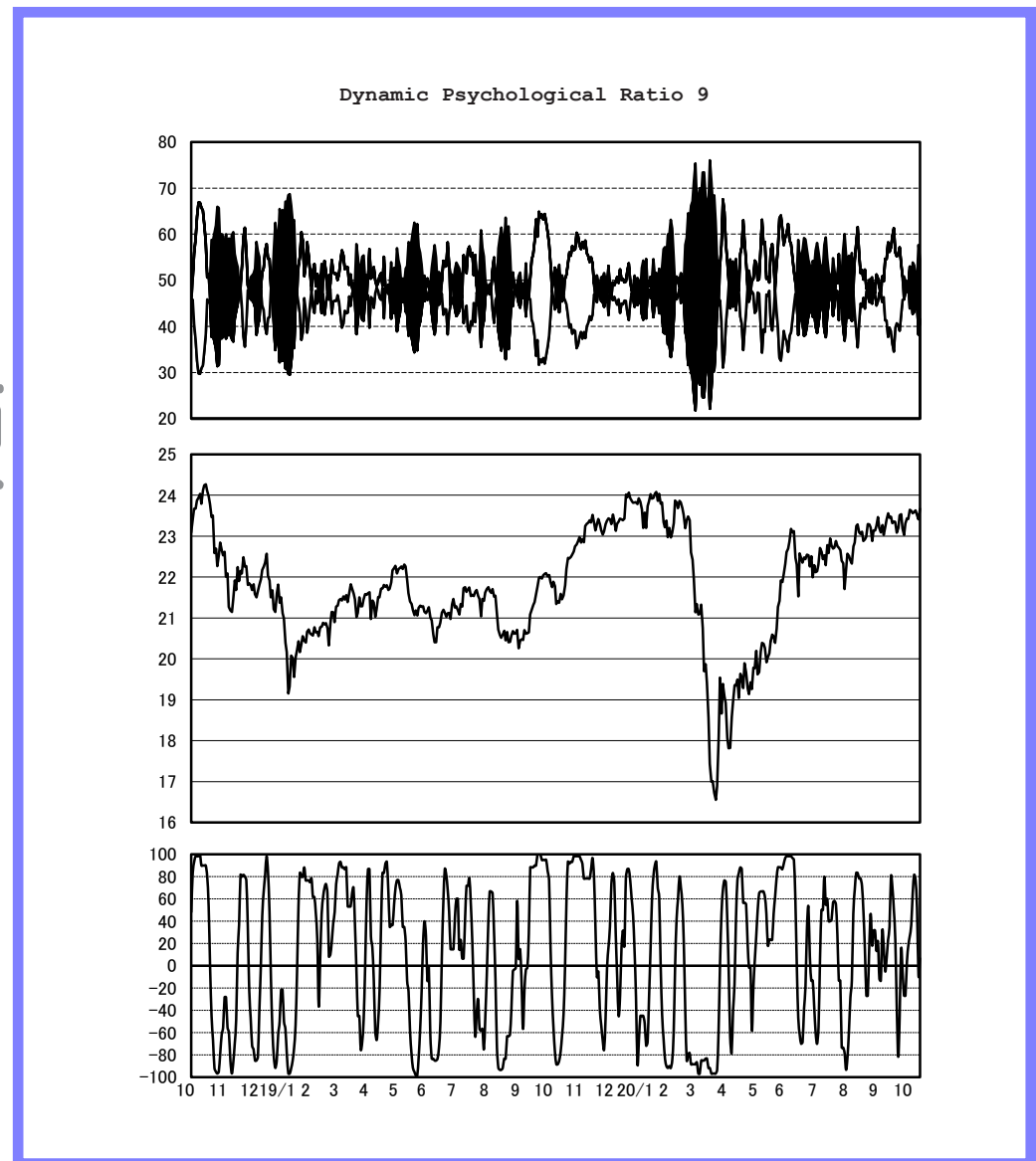
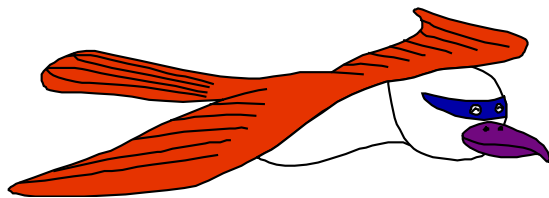
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者： 営業推進部 調査課

情報シャトル特急便

第675号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
中図は日経平均株価

下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

先週は個別の銘柄は動いているものの、東証一部の出来高は2兆円を下回る日が続いた。日経平均株価は小動きになってきている。経済再開に関するニュースが出れば株価は上がり、感染再拡大に関するニュースが出れば株価が下がるという事が多く、単に株価上下の材料が無くなってきているのか大統領選間近で様子見なのかという状態ではないだろうか。大統領選はバイデン氏優勢との報道が多いが、なりふりかまわず必死に再選を狙うトランプ大統領の気迫も凄く、隠れトランプ支持者の票が増加する可能性もあり、どちらが選ばれるか正直まだ判らない。大統領選挙は11月3日であり、なかなか思い切って動けない。とはいえ、メディアの解説を読むと市場に滞留している資金は、どちらが大統領になっても様々な口実をみつけて市場に流れ込む準備をしているようにも見える。

ところで、ウォール・ストリートジャーナルが選ぶ「世界で最も持続可能な経営をする企業100社」の首位がソニーとなった。同社は2018年から持続可能性指標に本格的に取り組み始めたという。一時経営が悪化した時期もあったが復活し、業績も安定してきている。ESGへの取組から会社の事業収益の安定に結びつけることができた好事例の企業となるかもしれない。ここのところ世界的な舞台で注目される機会の少ない日本企業だが、久しぶりに良いニュースだった。(nil admirari)

た だ 一 筋

日経平均株価は2万3500円前後でのみ合いが一段と煮詰まってきた。保ち合い入りとなった6月高値形成後、すでに4ヶ月が経過し、日柄調整は十分で、いつ上放れとなるのか注目されよう。そのきっかけは、2週間後に迫った米大統領選か、月末に集中する2021年3月期の中間決算発表か、と見ているが大きな動きが出ることを想定しておきたい処だ。

投資主体別の直近動向では、機関投資家は既にポジションを縮小していると考えられ、物色意欲の高い個人投資家が活発であり、値動きの荒い展開を演じている。足下では、グロース（成長）銘柄が多い東証マザーズ市場の急騰はすさまじく、過熱感を懸念する声もあり、銘柄選別には慎重さが必要。一方、バリュー（割安）銘柄には中長期視点の資金流入が継続しており、物色面では好循環がみられることから強気姿勢を堅持、「上げに浮かれず、下げに動じず」が求められよう。

このような状況下、注目したいのは日本工作機械工業会が12日発表した「工作機械受注9月15%減」だ。減少幅は8月の23%減から縮小、特に海外向けは2年ぶりのプラスに転じている。中で好調なのが自動車関連ではなく、半導体製造装置に使う部品やポンプを加工する工作機械のようだ。

個別銘柄では、岡本工作機械製作所（6125）、DMG森精機（6141）を注目したい。
（三感王）

参 見 屋 当 たり

今月後半の東京株式市場は、米大統領選や日本企業の決算を見極めたいとの動きが予想され、積極的な売買は期待しにくいと予想する。また、欧米で新型コロナウイルスの感染が再び拡大しており、改めて上値を抑える要因として意識されるのではないだろうか。そんな中、個別株の物色が予想されるが、注目銘柄として2銘柄を紹介したい。

1つ目は、前号でも紹介したJ T O W E R (4485)である。株価は堅調に推移し、本日も年初来高値を更新した。多少の調整はあると思うが、5 G関連銘柄の本命として注視していきたい。同社は通信設備の共通利用を可能にするサービスを提供しており、携帯会社は設備投資や運用費用の削減を図ることができる。

2つ目は、企業のマニュアル制作を手がけるグレイステクノロジー (6541)。効率化支援から、マニュアル更新サービスが大きく収益を伸ばしている。今後も多くの企業が業務改革していくと予想され、それに伴い同社のマニュアル作成支援には追い風となるだろう。

(腹)

中 堅 の 視 座

最近「ヴィーガン」という言葉をよく目にする。卵・乳製品等は摂取する「ベジタリアン」とは違い、完全菜食主義者のことを指す。世界中のセレブ、スポーツ選手の多くが取り入れ、健康や美容、メンタルのセルフメンテナンスのために取り入れる人が多いと言われている。

実はヴィーガンのライフスタイルは地球環境の保護と動物愛護の精神がコアになっている。畜産業による温室効果ガス排出量は世界で排出される温室効果ガスの18%を占め、すべての自動車や飛行機などの交通機関の排出ガスを合わせた量よりも多いとのデータがある。また、畜産業のため森林伐採が進みアマゾンの熱帯雨林が減少し続け、ブラジルは今や世界一の牛肉輸出国にまで急成長している。

そこでオイシックス・ラ・大地(3182)を取り上げる。ネット通販が主であるが、オイシックスのヴィーガンミールキットをスーパーのLIFEで販売開始した。4～6月期純利益は宅配需要の急増などから前年同期の4.4倍となり、次回決算も非常に期待できる。日本にも「精進料理」や「一汁一菜」の文化があったように、今からでも動物愛護や環境保護と向き合っていく必要がある。(阿君丸)

きらきら星

米国株が高値圏で堅調な動きとなっている。その背景には、米国での追加経済対策への期待があるといわれている。ただ、追加対策が行われることはコロナ感染者が未だに拡大していることを踏まえれば、確定事項であるだろう。つまり、追加対策期待だけで、現在の強いマーケットをもたらしているわけではないことになる。ましてや、実体経済が大きく落ち込み、一部の産業には大きな悪影響を未だに及ぼしているなかで、リスク資産の株式市場が根拠もなく強くなるわけではない。

では要因は何かというと、アフターコロナの世界を見据えた未来への投資であろう。従来の常識（旧常識）が否定され、新常識が形成される過渡期にあり、その新しい時代への期待に資金が集まってきている。その最たる例としてGAFAM（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン・ドット・コム、マイクロソフト）は、旧常識から新常識への移行という波をうまくとらえた事から大きく成長できた。そしてその考え方ができる人ほど、今後も大きなチャンスをものにする事になるだろう。

新しい時代は始まったばかりであり、強気相場はまだ続きそうだ。

(No. 32)

アナログの俯瞰

3月のコロナショック以降、特にここ3、4ヶ月の日経平均は不気味なほど静かに戻り続けている。上値下値を切り上げながら、忍び足的相場展開である。ただ、約2週間後に迫った米国大統領選挙、さらにコロナ感染欧州再拡大と、大きな波乱分子を抱える限り、積極的投資は今後も難しい感じか。とは言え、DX（デジタル変革）という言葉で盾に情報・通信関連株相場の流れが続く可能性は大いにある。

ところで、その米大統領選、デジャヴ（既視感）を感じてしまうのは自分だけだろうか？勝負は下駄を履くまでわからないと言うが、トランプ氏であれバイデン氏であれ、米中関係・増減税・経済対策への財政支出の3つをミキサーにかければ、結果としては大差ないことになるか。瞬間的な上下はともかく、長い目で見て全体相場の波動がこのまま継続することを切に願う。

焦るデジタル化推進からくるセキュリティの脅威・脆弱性対策関連でスター株候補！？ブロードバンドセキュリティ(4398)、製造業派遣・請負でUTグループ(2146)、地元企業2つ、システムサポート(4396)、歯愛メディカル(3540)。

(ベア〔下落〕とベア〔熊〕、たとも由来も備えあれクレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

<ダイト>

2021年5月期第1四半期連結決算は大幅な増収増益。GE（後発医薬品）市場の拡大に加え、製剤部門で新薬や長期収載品の製造受託、一般用医薬品の販売増加などが好調だったことが要因だ。売上高は137億3百万円と四半期会計期間としては過去最高の売上高となり、増収効果や利益率改善によって営業利益、経常利益、純利益も四半期会計期間として過去最高となった。今期業績については期初予想（増収減益見通し）が据え置かれたものの、進捗率が高いことを考えると上方修正期待が高い。今村証券では、売上高は会社予想を8億円程度上振れ前期比7%増の483億円を予想、営業利益は前期並みの水準を想定する。

堅調な業績の背景にはGE市場の拡大があるうえ、新薬や長期収載品の製造受託を請け負っていることも好調な業績を支える。殊に注力する高薬理活性製剤ではさまざまな規模の製造に対応すべく設備を増強しており、需要を着実に取り込んでいる様子で、来期についても堅調な業績が期待できよう。

ただ、足元の株価は4,000円台を回復し、今期の上方修正、および来期増益を織り込んだ水準にあると考える。国産原薬の需要拡大、高薬理活性製剤など製剤事業の拡大によって安定した収益拡大が期待されるとはいえ、足元の株価上昇によって投資妙味は薄れた感があり、投資判断はNEUTRALとする。

” 僧 中 線 罫 ”

月足



日足



出所：ブルームバーグ

週明け 19 日の日経平均株価は 23, 671 円 (+260 円) でスタート。主力株をはじめ広範囲に買戻しが入った。11 月 3 日の米大統領選が近づくが、民主党が勝つ可能性が高まっている。バイデン氏の目玉政策であるクリーンエネルギー革命に絡む再生エネルギー関連株も急動意。DX、5G、遠隔診療、脱ハンコなどの人気テーマに割って入るかに今後注目していきたい。

6890 フェローテックホールディングス

半導体ウエハ、半導体設備向け部品の製造や、太陽電池関連製品を手掛ける。2018 年 1 月の高値 2, 900 円を付け下落が始まり、今年 3 月の 450 円で底を打つ。10 月に 1 月の高値 942 円を突破し新高値に躍り出て、昨日終値は 1, 057 円。10 月 9 日に三菱UFJモルガン・スタンレー証券が株価目標を 1, 600 円、投資判断をBUYに引き上げている。強気で見たい。(ICHI)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大 1.201750% (税込) (1.201750% に相当する金額が 2,612 円未満の場合は 2,612 円 (税込)) の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。